

令和元年度 稲沢市地域自立支援協議会 第4回就労支援部会 議事要旨

[日 時] 令和2年1月21日(火) 午後2時～午後3時15分

[場 所] 稲沢市役所 第1分庁舎 2階 第3会議室

[出席者] 就労支援部会委員6人、事務局3人、その他1人

[欠席者] 就労支援部会委員2人

[議 事]

1 協議事項

(1) 企業のための見学会事業の報告と次年度について

・見学先企業のアンケート結果について報告(事務局)

- 昨年より多く参加があり良かった。同じ製造業なので興味を持って聞いた。受入環境と一緒に携わる社員の参加があり、重要と感じた。当日質問があったが、雇用により生じる課題や本当に困っていることなど、生の意見が聞けると良いと思う。
- 昨年に比べて盛況だと思った。先生の説明が分かり易かった。企業の方は実際の障害者の方がどんな作業をしているか少し分かりづらかった。後は良い話が聞けた。
- 良い企画だと思う。人を集めるのが大変。今年はチラシをたくさん配ったりして参加企業も増え、最後の質疑も多く、印象的だった。これからも続けば良い。
- 普段から学校に色々な方を連れていくので生徒たちは慣れている。雇用につながる子は2～3割と伝えている。インクルージョンで見て頂くのが良い。企業の方は、この方が、という部分を見たい方はいたかなと思う。今後の不安については良く分かる。不安をすごく感じる企業と、入ってから考えれば良いという企業があり、そう思って欲しい。会社の方が支援するスタイルを理解していただきたい。会社の支援力も課題かなと思う。
- 誰がどの業務についているかは、事前に会社へ伺った際に、この方がという紹介はいかなものか、という会社の考えもありこうなった。こういう事は今後も起こり得ると思う。逆にいうと、障害があるかないかというレベルで仕事をされていたともいえる。採算をいうと難しい面はある。採算を併せていく支援をどうするかは課題だと思う。
- 人集めが大変だと思うが、チラシの配布や個別に声をかけて頂いたことが功を奏したと思う。今年のように最後の質疑が活発で、企業に如何に参加していただくか、引き続きの課題だと思う。事業の内容としては良かった。
- 社長さんによると雇用は特別な事ではないというお考えで、採算のこともあったが、今は経営が順調であるが、そうでない時にはどうなのか。市でも雇用しないといけませんが、どんな仕事ができるのか、人事異動に対応できるかなど課題はある。
- 今年5回目になるが、昨年は最初から障害者ということで説明したが、今回は会社として出たくない方針があった。生産性だけで考えると、採算が合うか、本音で聞いてみたいこともある。不況になっても雇用するということまで成熟しているかが課題。そういう問題も出たと思う。次年度以降の事業の継続についてどうか。

- 学校としてはまた来てほしい。
- 会社の見学は、どういう企業に依頼していくのが良いのか毎年迷う。地場産業も良いが雇用事例が少ない。
- 去年は、元気のある子が良いと思い本人を紹介した。インタビューなども本人は喜んで参加した。他の子も良いと言った。本人を出すことは、経験が積まれるということで理解した。雇用されている企業があれば、やらないよりやってもらった方が良いと思う。企業の本音が聞ける場が他にあるのならそういったことでも良いと思う。
- 見学があって、事例報告ということもあれば良いか。内容については次年度検討したい。
- 今回、学校見学された企業の一つが、施設外就労を検討されている。部会として施設外就労を理解してもらうことについて検討したい。
- 造園業の会社が今回、学校見学をされて、動機は、謙遜だと思うが、小さい企業には応募者が少ないので障害者雇用も考えないといけない、という考え。義務というより純粋に人手不足を打開するのに障害者も活躍してもらいたいということ。
- 先程の話にもあったが、特別支援学校の生徒の2〜3割しか一般企業に就職できない状況で、残り7〜8割は福祉事業所へ行く。その後の人生の所得補償を考えると、障害者年金は6万5千円程で、作業工賃は15,000円程度、併せて10万以下。親御さんと一緒にないと生活が無理な状況。工賃をたくさんもらえるように考えないといけない。
- 小さい企業で雇用を考えると、沢山の人数が元々いない。一人障害者が雇用されて、何でも出来るなら良いが、小規模企業にとっては雇用のハードルは高い。障害者施設はグループで出掛けて会社に伺い、業務に従事する施設外就労がある。職員も同行して仕事をする。それで工賃をもらいながら、この方ならということがあれば雇用してもらう。
- 施設外就労をかませれば、雇用のハードルは少し下がるのではないかなと思う。市内で事業所を開拓して、事業所も、より高い工賃を支払うことをしないとイケない。施設から外に出ていくことを推進して行けたらと思う。
- 植木は地場産業であり、ねらい目でもある。植木を切って下に溜まる枝をかき集めて捨てに行く作業は、技術はいらない。障害のある方が活躍できる場はあるのではと思う。
- 施設外就労も部会で検討することで良いか。雇用率とは別か。
- 雇用率とは関係ない。事業所の方でも就労を考えるきっかけになればと言うことで取り組んでいきたい。どんな形が良いか考えていきたい。

(2)その他

- ・障害者優先調達推進法に基づく稲沢市の状況について説明（事務局）

- 優先調達について福祉施設として受けられるかどうか。
- 事業所としては、申込み方などの情報が分からなかった。シルバー人材センターが多い事が分かった。除草や清掃はやれる。前回の連絡会でも他の市役所の掃除の仕事の情報があつた。できることを課に持って行けば良いと分かった。次回連絡会で、事業所も今

の仕事があり余力がないと思うので、計画を立てて、検討したい。施設外就労についても、大きい企業ばかり出向きがちだが、身近な所にあるのかなと思った。事業所として生き残りや利用者の生活保障も考えないといけないと思う。

- 商工観光の仕事をシルバー人材センターへ出す経緯はどうだったか。
- 福祉課の障害グループとして事業所へ出そうと言うことで出している。
- 毎年ではなく一定期間だけの仕事もある。清掃も、たくさん草があるエリアに入って除草する内容があり、そういうことも出来るのであれば、申し出てもらって良い。今まで、例年どおりでシルバーに依頼しているのだと思う。
- これだけの課があるが、取りまとめは福祉課か。
- 取りまとめはなく、課ごとに依頼する。結果の情報をまとめて公表するのは契約検査課。
- 優先調達法では、毎年調達金額を上げていくことになっていると思うが。
- 年度末に福祉課として調査をしている。事業所の活用について発信もしているが、実際には課毎で動く。
- 年度の早い段階で目星をつけておく必要があるのではないか。
- 何も考えないで例年通り進めてしまうことはあると思う。
- 事業所が飛び込みで相談するのは難しい。当初は福祉課が同行するのが良い。
- 随意契約というのは、どこで判断するのか。
- 法律上、契約対象となる場所が決まっていて、その中ならどこでも良い。検討しないで同じ所と契約しているところもあるかもしれない。
- 新しい事業所が相談しても、検討されないかもしれない。
- 障害者施設は、福祉課以外では分からない分野であるので職員が付いていくのが良い。
- 9月頃には次年度予算があるので、それまでに動くのが良い。
- 優先調達法と言う大義名分があるのでそれに基づいて進めたい。
- 随意契約にしては高額なものもあるが、候補が複数あれば、どう決めるのか。順番に決めているなら良いが。
- 言い値だったり、新たに参加できないとしたら問題。
- 一者特命でないものがあるかもしれない。
- 出来るなら大きな金額のものをとりに行くのが良いと思う。障害のある方でも、たぶん出来る仕事ではないかと思う。
- 優先調達は、県はHPで事業所が出来る仕事をまとめていて、職員がこれを見て仕事を出している。これで工賃が上がれば良い。
- 具体的に進めて見ても良い。部会には商工観光課も参加されている。今から動いて、次年度に間に合うこともあるかもしれない。